

# 猪の瀬戸湿原便り

第37号

平成25年 2月 21日 発行：NPO法人猪の瀬戸湿原保全の会 事務局

## 「猪の瀬戸湿原保全の会」PR用に活動の概要と歩みをまとめました

### 1. 猪の瀬戸湿原の野焼きと「NPO 法人 猪の瀬戸湿原保全の会」の歩み

#### 猪の瀬戸湿原の変遷

- 1933年(昭和8年) 城島高原一帯を鐘が淵紡績が用地買収(油屋熊八の働きかけで)  
1935年(昭和11年) 綿羊放牧、後にアンゴラウサギも飼育  
1953年(昭和28年) 由布岳・鶴見岳一帯阿蘇国立公園に編入  
1970年頃 猪の瀬戸湿原にゴルフ場建設計画 別府市と湯布院町で反対運動 計画中止  
1972年(昭和47年) 奥別府学術調査(別府市・湯布院町)・・・奥別府の自然保護を提唱  
地域畜産業の衰退に伴い野焼きが停止し、徐々に湿原の森林化や乾燥化が進む  
1992年(平成4年) 自然環境学術調査(大分県)・・・貴重生物(公園指定や希少種)の生育を確認  
豪雨時の土石流入により湿原中央部の荒廃が顕著になっていた  
2005年6月 猪の瀬戸湿原の自然環境復活への動き(大分県)  
湿原再生に向けたボランティア活動開始  
(たて原湿原、坊ガツル湿原のラムサール条約登録で湿原の価値が高まる)  
**2007年(平成19年) 5/27 「猪の瀬戸湿原保全の会」発足・・・ボランティア団体として**  
5月から「猪の瀬戸湿原再生実験野焼き実行委員会」が**実験的調査(5カ年)**  
植生の異なるオギ群落、ヨシ群落、ツルヨシ群落の中に火入れ区、刈り取り区、放置区の実験区を  
設定して5年間植生調査を行い湿原植生回復の効果的な手だてを模索する  
2010年(平成22年)から 毎年4・5月に湿原内のサクラソウ保護活動  
**2011年(平成23年) 4/13 NPO 法人猪の瀬戸湿原保全の会 認証**  
2011年4/22 NPO 猪の瀬戸湿原保全の会 登記  
12/7 猪の瀬戸湿原野焼き実行委員会を立ち上げ野焼きの再開を決定  
**2012年 3/10 第1回 猪の瀬戸湿原野焼き一地主権者の(株)城島高原と連携してA区とB区で再開**  
2012年7/10 猪の瀬戸湿原野焼き実行委員会(県道南側全域の野焼き実施決定)  
8/26 輪地きり開始(9/1,9/8,9/15,9/23の5回)  
9/23 輪地焼き実施(10/14の2回)  
10/28 観察道整備  
2013年1/29 消火用水確保の水溜設置  
2/16 野焼き実施に向けてリハーサル  
**2/24 第2回 猪の瀬戸湿原の野焼き(A,B,C区の県道南側全域で)**

### 2. 「NPO 法人 猪の瀬戸湿原保全の会」の概要

- 設立 2011年(平成23年)  
理事長 川野 弘人 (TEL 0977-22-1067)  
会員総数 67名(男50、女17)  
入会 入会届提出、(入会金1,000円、年会費1,000円)  
主な活動 総会と研究発表会(年度初め4月)  
定例活動(月1回、第4日曜日)



**猪の瀬戸湿原の保全の関わる活動(輪地切り、輪地焼き、野焼き、流水辺の整備)**

**希少野生動植物の生息調査と保護活動 —— 生物多様性の推進 ——**

**(サクラソウ、ムラサキミカキグサ、モウセンゴケ、エヒメアヤメ、ヒゴタイ等)**

会報「猪の瀬戸湿原便り」の発行(不定期)

湿原観察会、外来生物除去活動、県道周辺の清掃活動 等

#### 設立の趣旨

湿原内には多様な動植物が生息・生育しているが、これらの生物は環境の変化に敏感であり、生物多様性が重要視される昨今、湿原の乾燥化や森林化によって貴重な生物が消失し、湿原生態系の破壊が危惧された。

保全の会は、本来の湿原状態の回復に向けて、野焼きを再開し、絶滅危惧種の保護や外来植物の除去を積極的に進め、観察会や体験活動を通じて、故郷の貴重な自然を後世に引継ぐことに寄与する。